

挑戦

ちようせ

No. 59

所報タイトル「挑戦」は所内で掲げる

平成 22 年度の目標です。

発行責任者 / 小林 政氏

発行日 / 2010 年 5 月 1 日

ISO9001:2000認証取得
B06G10002ROS

●会計 ●税務 ●経営コンサルティング

KOBAYASHI GONDON

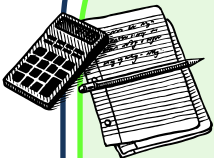
小林合同会計

所長税理士 小林 政氏
税理士 山野 基尚 税理士 須賀 保雄

〒332-0032 埼玉県川口市中青木1丁目1番25号
TEL (048) 253-5668 FAX (048) 253-7602
<http://www.e-cg.co.jp>

この所報のバックナンバーは弊所ホームページにて掲載しております。

会計事務所の仕事



所長代理

税理士： 山野 基尚

大学を卒業して、一般企業ではなく会計事務所に就職して 20 年以上になりますが、ふとこの仕事のやりがいはどこにあるか考えることがあります。

最初の数年間は仕事を覚えるのが精一杯で試験勉強も同時にしていた訳ですから、この仕事の魅力を見つける余裕などありませんでした。ようやく仕事を覚え、自分一人でお客様を任せられるようになると、正確な決算書と申告書を作成することが税理士の仕事であると考えようになりました。とにかく間違いのない処理をすることを心がけていました。

それが余裕が出来るにつれ、正確な決算書・申告書は作成出来て当たり前であり、この仕事の魅力はまた別のところにあるように思えてきました。

それはお客様と一緒に、考え、悩んで会社の業績を伸ばしたり、事業承継がうまく行くような対策を講じて行くこと等が、本当のやりがいなのではないか、ということです。

私が提案したことが結果的にお客様の経営等に役立ち、感謝されることは何事にも得がたい充実感を味わえるものです。

しかし、これから先また、違ったやりがいを見つける事が出来るかもしれません。

よって、会計事務所の仕事は当初考えていた以上に、なかなか奥深いと思います。



上海万博への思い

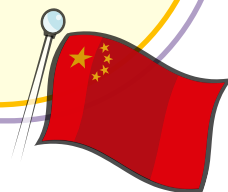
主査：白井 茂

上海万博が開催され、皆様それぞれに中華人民共和国との関わり、旅行の思い出、或るいは中国人とのふれあいの記憶が蘇ったことと推察いたします。私も少なからず関わりをもった者として感慨深いものがございます。現在、齢 50 を超えておりますが、青少年の頃、中国の歴史、文化に傾注したこともあって、当時いつか訪中したいと望んでおりました。日中国交正常化の後も友好団体等しかビザが発給されず、自由に渡航できる頃には弊所に就職しており、願いは叶いませんでした。

年号が平成に変わり、顧問先のお誘いで、観光旅行ではありますが、遂に中国渡航を果たしました。1999 年の GW で上海での結婚式に出席するのが主たる目的です。在日の中国人同士でしたが、新郎が上海人でしたのでその運びとなった由です。それ以降、顧問先の中国への投資活動が活発となり、北京、大連、上海、無錫へ、合わせて 6 回、首尾よく目的を果たした次第であります。仕事についてはさておき、中国での興味の中心は中国人の思想、哲学的なものが主でありましたので、現地においてはひたすら中国人との会食、会話を心がけた次第です。勿論、通訳を通してのことですが。印象深い事柄をいくつか挙げますと、中国人はすべからず商売人であること、例えば、仕事上の依頼事を話すと、関連の無い職業の者でも当該事業者を紹介してくることが挙げられます。中国に何年か赴任している方の解説によると、「廟に参拝する時の大多数の中国人の願いは、第一にお金、二に家族の安寧」とのことです。ビジネスチャンスはほっておかないということでしょうか。一流ホテルでの金持ちの振る舞いの尊大さを目の当たりにすると納得という感じです。通訳なしで会話できるのは当該通訳者のみになりますので、多くの時間をその通訳から得ることができました。共通するのは勉強に対して真しであることです。自身が解らない言葉が出てくると、しつこいくらい何回でも教えを請います。笑い話ですが、酒席において、同行の日本人女性がトイレに行きたい旨伝えと、その女性通訳がトイレに同行し、事もあろうに下着を下し「私のようにしてください」とレクチャーしたそうです。また、噂に聞いた食物連鎖の象徴的なもの、豚のいるトイレに行ってみようと思ったのですが、それは果たせませんでした。

名目 GDP が本年中に日本を抜き 2 位に、日本の輸出入の相手国でその額が共に中国がトップになった今、中国嫌いと言ってはいられない時代に突入しています。相手を知らないことが偏見に繋がります。百聞は一見に如かず、万博見物がてら、中国へ行かれてはいかがでしょうか。

最後までこの拙文を読んで戴いた方に感謝申し上げます。



「社会人の常識」研修

4月6日から9日までの4日間、「社会人の常識」と題した研修が㈱大塚商会の主催で開催されました。当事務所を代表し、若手2名が参加して参りました。朝礼で研修を終えた彼らより、「知っていること」と「実践すること」は違うのだ等々の感想や報告がなされました。研修に参加することで、基本的なマナーを再確認し、実践していくことの大切さを学んだようです。研修で学んだ事を他の職員の手本として、率先して実行していったらいいと思います。

4月6日(火) ビジネスモラル編

- * 学生と社会人の違いを知る
- * ビジネスモラルを理解する
- * ビジネスモラルを実践する

なぜビジネスモラルが必要なのか？の動機づけから若手社員の自己認識までを身につけます。

4月7日(水) ビジネスマナー編

- * 立ち居振る舞い
- * 名刺交換
- * 来客対応
- * 電話対応
- * 話し方と言葉遣い
- * 公共の場での行動

会社のイメージアップの第一歩は、社員全員が適切なビジネスマナーを身につける事です。会社の顔として必要なマナーや心構えを確認し、実践的なトレーニングを行いながら、基本のマナーを学びます。

4月8日(木) ビジネス文書編

- * ビジネス文書の要件
- * 基本構成
- * 敬語
- * Wordの便利な機能

ビジネスで書く文章には一定のルールがあります。メールやワープロソフト等のコミュニケーションツールを適切に使い分け、正確でわかりやすい文章の書き方や社内・社外文書の効率的な作成方法を学びます。

組織での情報セキュリティ強化には、社員全員が日頃から正しい行動を習慣とすることが大切です。個人が心がけるべき事柄、方法など日常の業務の中ですぐに役立つことを身近な事例を通して学びます。

4月9日(金)

セキュリティ編

- * 情報セキュリティとは
- * 関連法規
- * クライアント
- * ネットワークとメール
- * ソーシャルエンジニアリング

研修を終えての感想

今回、4日間のビジネスマナー研修に参加して、社会人としての心構えや言葉遣い等たくさんのことを学んできました。都内で行われた研修の人数は30名ほどで、様々な業種の方が参加されていました。

研修は講義やグループワーク、実践を通して様々なことを真剣に学びつつも、非常に和やかな雰囲気で行われました。

ビジネスマナーは、法律や規則とは異なり明確な決まりがあるわけではありません。答えも1つとは限らず、見えない配慮だからこそとても難しく、そして大切なものだと感じました。一番大事なことは場面ごとにただ形式的に対応するのではなく、相手の目線に立ち相手の気持ちを慮って行動することだと思います。

これから先、時代が変わりコミュニケーションツールやビジネスツールが変化したとしても、この変わらない相手への配慮の気持ちを常に持って、美しい立振る舞いを心がけて行動していきたいです。

影山 智史

私は以前、製薬会社に勤めていたことがあり、そのときの新入社員の研修といえばマナー本一冊渡され、あとは製品に関する知識や営業での説明の仕方など20日ほどに及ぶ研修でした。こうして考えてみるとビジネスマナーは自分で本を読んだり、先輩の行動から学んできたような気がします。その点、今回の研修では講師と一緒に学ぶ新入社員の方がいて、6年前に戻ったようなそんな新鮮な研修もありました。

内容はビジネスモラル、ビジネスマナー、ビジネス文書、情報セキュリティの4項目を四日間に分けて学びます。自分では分かっている項目も、また改めて学ぶことによってビジネスでの大切さを実感しました。その中でも「わかる」と「できる」は違うということです。「わかる」ことも「できない」のでは、それは「わかる」とは言えません。実践できて初めて「わかる」と言えるのです。

今回の研修で学んできたことを実践でも生かせるよう日々頑張っていきたいと思っております。

ここで研修でのグループで考えた「セキュリティ」の標語をお伝えします。

セ 整理整頓 **キ** 貴重に保管 **ユ** 油断するな **リ** 倫理を持って **テ** 徹底的に **イ** 意識改革

というようにしっかりと意識を持って取り組んでいきたいです。

長谷川 寛